



かけはし

心豊かに ことば豊かに

読み取り、伝え合い、高め合う授業づくり

本校では、一昨年度から、『心豊かに ことば豊かに』をテーマとして、国語科の「読む」領域に重点を置き、互いの思いを語り合い、より豊かなコミュニケーション力を身に付けられるよう取組を進めてきました。その結果、読み取ったことを伝える力、自分の考えと比べながら他の人の意見を聞く力などが、少しずつではありますが育ってきているように感じています。そこで、本年度はこれまでの取組をさらに進めて、“相互に高め合える話し合い活動の工夫”に視点を向け、『みんなで話し合い、読みを十分に深める。』『自分の考えと比べながら他の人の意見を聞き、より高める。』といった学習活動を積み重ねていきたいと考えています。

また、朝の十分間読書「ときめきタイム」や基礎基本の時間の充実、積極的な図書活用や言語環境の充実にも引き続き取り組み、国語の学力向上と豊かな人間性や感性を育てていきたいと考えています。

ところで、家庭での子どもたちの様子はいかがですか。子どもたちが今興味をもっているものは何でしょう。
○人をバカにして笑いをとるといった感覚を知らず知らずの間に育てている一部のテレビ番組。
○リセットすれば生まれ変わる命を相手に暴力的な言葉や行為を知らず知らずの間に覚えていくゲームの世界。
○見えないことをいいことに、文字による中傷や非難の言葉がどんどん広がるメールの世界。

などなど

人が生きていくために大切にしなければならない、相手を思いやる言葉や心がどんどん奪われていっているような気がしませんか。本来、家庭とは、人格形成の第一歩となるところです。テレビやゲーム、携帯電話等に支配されてしまうことなく、子どもたちがほっとできる温かな家庭の雰囲気の中で、親子の会話を大切にしながら、人として大切にすべき言葉や心を育んでいきたいものです。また、家庭と学校との連携をより一層深め、心豊かな、ことば豊かな子どもを育てていきましょう。

一人はみんなのために、 みんなは一人のために

『赤信号、みんなで渡ればこわくない。』式に、一人ならブレーキがかかることも、大勢になるとブレーキがかからなくなる。そんな集団心理がエスカレートすると、いじめや問題行動が起こります。それを防ぐためには、まず、自分のしていることが、集団の中でのわがままとなっていないか、好きか嫌いか・おもしろいかおもしろくないかの判断でなくきちんとした 善悪の判断に基づいているかを考えなければなりません。そして、人に迷惑をかけない行動をしなければなりません。また、一人ではブレーキがかけられないことに、それはだめだとブレーキをかける集団の力を高めなければなりません。学校では、そうした『一人はみんなのために、みんなは一人のために』という意識を育てて、集団の力を高めていきたいと考えています。

ちょっといいお話

新井白石という学者のお父さんの話です。大きな米びつの中から米を一粒とってどこが減ったかよく見るようにと白石に言います。ところがそんなものは分からない。そこで言ったお父さんの言葉です。

「分からないけれども、これを一年ぐらいつっていると、やっぱり米は減ったなあと分かるだろう。勉強も、一日ぐらいいさばったってどうなるもんでもない。しかし、ずっと続けていると、ある日、ふと何か自分がだめになったな、と気づくものだ。」

『心のパン屋さんーことばの教育に生きる』 大村はま著 筑摩書房より

ご意見ご感想をお寄せください。
